

Ⅱ 成果の公表

1. 普及に移した、または普及の参考となる技術情報

平成29年度 第1回農業・農村の課題調整会議

平成29年8月23日(水) 奈良県橿原総合庁舎

1) 普及に移した技術課題

	課題名	担当
1	低温伸長性のよい5～6月咲き小ギク「春日Y1」と「春日W1」	花き栽培ユニット

2) 普及の参考となる技術・情報

	課題名	担当
1	イチゴの受粉用ヒロズキンバエに対する薬剤の影響	野菜栽培ユニット
2	イチゴの受粉用ヒロズキンバエの幼虫飼養方法	野菜栽培ユニット
3	育成中のイチゴ新系統の特性	野菜栽培ユニット
4	クマザサ切り葉の出荷調整技術	花き栽培ユニット
5	カキノヘタムシガの防除適期新基準	果樹栽培ユニット
6	小麦「ふくはるか」のタンパク質含有率が製粉性に及ぼす影響	穀物栽培ユニット
7	小麦「ふくはるか」のタンパク質含有率が小麦粉の糊化特性、生地物性および色調に及ぼす影響	穀物栽培ユニット
8	下北春まな赤系統における収穫時期とアントシアニン量の関係	植物機能ユニット
9	ハウレンソウ生育障害要因の解明	環境保全ユニット
10	薬草堆肥の特性と適正施用量	環境保全ユニット 遺伝資源保存ユニット
11	バンカーシートを用いたカブリダニ製剤によるハダニ密度抑制効果	病虫害防除ユニット
12	促成イチゴにおけるハダニ防除へのカブリダニ製剤利用マニュアル	病虫害防除ユニット
13	イチゴうどんこ病に対する各種薬剤の防除効果	病虫害防除ユニット
14	露地ナスの天敵利用栽培におけるスピロテトラマト剤の苗処理の効果	病虫害防除ユニット
15	ヤマトウキ種子の長期保存に適した温度条件	薬草栽培ユニット
16	肥効調節型肥料を利用したヤマトウキの省力的施肥体系	薬草栽培ユニット
17	奈良県中山間部の気候下で生産できる茶セル成型苗の開発	茶栽培ユニット

2. 農業研究開発センター成果発表会

平成30年2月23日(金) 農業研究開発センター交流・サロン棟

テーマ:「野菜栽培現場の課題解決につながる研究」

1) 成果の紹介(口頭発表)

東井君枝	イチゴ促成栽培におけるヒロズキンバエの利用
今村剛士	イチゴのハダニ対策
藤田奈都	ハウレンソウ生育障害要因の解明
廣岡健司	下北春まなの赤系統の育成
木矢博之	レタス跡・畝マルチを再利用した早生エダマメの省力栽培
米田祥二	パイプハウスの強風・雪害対策

2) ポスターセッション

1	台木の違いがカキ「甲州百目」の幼苗接ぎ木苗の着果と生育に及ぼす影響
2	小ギクにおけるキク矮化ウイルス抵抗性の遺伝様式
3	宇陀地域に適した薬草栽培技術
4	新しいヤマトウキ栽培マニュアルの作成
5	水稻高温耐性品種の本県における特性
6	県特産品のイチジクを用いた加工品開発
7	無被覆でも色の美しい粉末茶生産
8	新しい柿加工品「柿糖蜜漬け」の普及に向けて

3) 展示・試食

展示	アシストスーツ、電動運搬車、ヒロズキンバエ(イチゴ受粉用)
試食	イチゴ、大和茶、イチジクグラッセ

3. 刊行物

【奈良県農業研究開発センター研究報告 第49号 2018.3】

[原 著]

杉村輝彦・林 良考・辻本誠 幸・脇坂 勝	着果促進処理と施肥方法が幼苗接ぎ木由来のカキ‘富有’ポット樹の果実品質と生育に及ぼす影響	49:1-7(2018)
仲 照史・印田清秀・角川由加	チオ硫酸銀錯塩 (STS) 処理による小ギク切り花における葉の黄変抑制	49:9-17(2018)
仲 照史・角川由加	生育期の摘葉処理と生育調整剤の散布処理が小ギクの開花斉一性に及ぼす影響	49:19-27(2018)
米田祥二・西本登志・佐野太郎	サトイモ品種・系統のAFLP法による分類と特性調査	49:29-34(2018)

[短 報]

石川亜希・濱崎貞弘	カキ‘太天’の干し柿加工適性の検討	49:35-37(2018)
國本佳範・今村剛士	採種スイカにおける天敵製剤を利用した害虫管理の検討	49:38-40(2018)

[特別報告]

西本登志	奈良県在来のサトイモ，ナスおよびツケナの食味特性に関する研究－‘味間いも’，大和丸ナスおよび大和マナについて－	49:41-87(2018)
------	---	----------------

【農業研究開発センターニュース第152号 2017.6】

5～6月咲きの小ギク新品種‘春日Y1’と‘春日W1’
奈良にゆかりのある遺伝資源を保存するジーンバンクの開設について
カキ新品種‘太天(たいてん)’を使った良食味干し柿の開発
薬用作物ヤマトトウキにおける葉と根の同時生産方法の検討
河川における水稻除草剤の濃度推移について
新茶シーズン到来！小学生ら2000人が見学

【農業研究開発センターニュース第153号 2017.12】

ヒロズキンバエに対する薬剤の影響
イチゴ‘古都華’のDNA識別
平坦部向け飼料用等多収性水稻品種の選定と栽培技術の確立
小型ハウスを用いたカキ台木育苗方法
露地ナスの天敵温存体系の改良
新しいセンターで初の公開デーを開催しました！

4. 知的財産権の保有状況

特許権等の名称	発明 考案者	出願 年月日	出願番号	登録 年月日 登録番号	共同開発 機関
柿タンニンの抽出方法、及びこの方法で抽出された柿タンニン	濱崎貞弘	H16. 3. 24		H22. 4. 23 特許第 4500078号	
カキ苗の周年生産方法及び苗	脇坂 勝 杉村輝彦	H18. 6. 22		H23. 11. 11 特許第 4858693号	
切り花収穫機	仲 照史 角川由加 小山裕三	H21. 10. 13		H26. 11. 7 特許第 5640270号	農業・食品産業技術総合研究機構 みのる産業(株)
燃焼排ガス中の二酸化炭素を利用した圧力スイング法による園芸用施設への二酸化炭素供給装置	西本登志 堀川大輔 後藤公美 佐野太郎 仲 照史	H22. 7. 9		H26. 7. 18 特許第 5578469号	産業技術総合研究所 大阪ガス(株) 日本軽金属(株)
植物生育環境調節装置	西本登志 堀川大輔 宍戸拓樹 佐野太郎	H25. 5. 2		H27. 4. 10 特許第 5725627号	大阪府立環境農 林水産総合研究 所 鳥取大学 農業・食品産業 技術総合研究機 構 大日本プラス チックス(株) (株)ヴェイル
燃焼排ガス中の二酸化炭素を利用した園芸用施設への二酸化炭素供給装置	西本登志 仲 照史 廣岡健司 佐野太郎	H23. 9. 12		H29. 7. 28 特許第 6179915号	産業技術総合研究所 農業・食品産業 技術総合研究機 構 大阪ガス(株) 日本軽金属(株)
ピートモス組成物及びその使用方法	西本登志 安川人央 東井君枝 矢奥泰章 皆巳大輔	H26. 7. 10	特願 2014-142691		倉敷紡績 (株)

品種名	育成者権者	登録年月日	登録番号
アスカルビー	奈良県	H12. 2. 4	7651号
古都華	奈良県	H23. 10. 5	21164号
春日の紅	奈良県	H25. 3. 6	22340号
千都の舞	奈良県	H28. 3. 1	24776号
千都の風	奈良県	H28. 3. 7	24876号
千都の恋	奈良県	H29. 3. 1	25768号
千都の粋	奈良県	H29. 3. 1	25769号
春日の鈴音	奈良県	H29. 3. 28	25914号
HC3-6-10-11	奈良県	H29. 4. 25	25973号
春日W1(1206A65W)	奈良県	出願 H29. 3. 2	出願番号31861号
春日Y1(1205A14Y)	奈良県	出願 H29. 3. 2	出願番号31862号

5. 平成29年度 研究成果情報 (2018.3) (2課題)

No.	推進部会	成果名	ユニット名	研究担当者
1	野菜	イチゴの授粉用ヒロズキンバエに対する殺虫剤の影響	野菜栽培ユニット	東井君枝
2	花き	チオ硫酸銀錯塩 (STS) 処理による小ギク切り花の葉の黄変抑制とその品種間差	花き栽培ユニット	仲 照史

6. 学会・研究会誌への投稿等

著者名	タイトル	種類	学会・研究会誌名	巻号：頁	発表年月
浅野峻介・平山喜彦	Distribution of Tomato spotted wilt virus in dahlia plants	原著	Letters in Applied Microbiology	64(4):297-303	2017.4
井村岳男	露地ナス栽培での天敵保護利用体系におけるスピロテトラマト剤の苗処理の効果	短報	関西病虫害研究会報	59:101-103	2017.5
國本佳範・今村剛士	回転式散布塔に代わる散布装置の構築	テクニカルノート	応用動物昆虫学会誌	61:192-194	2017.9
神川 諭	奈良県の中山間地域におけるパイプハウス形状の調査とタイバーの適正な設置	原著	農業施設	48(4) (通巻155):234~240	2017.12
谷川元一	奈良県農業研究開発センターの120年の歴史と現在	総説 (特別講演)	作物研究	62:51-55	2017.12
仲 照史・廣岡健司・辻本直樹・角川由加・虎太有里	開花期の年次安定性と斉一性に優れる8月咲きの小ギク‘春日の紅’の育成	原著	園芸学研究	17(1):105~114	2018.1
平山喜彦・浅野峻介	Weeds as the potential inoculum source of <i>Colletotrichum fructicola</i> responsible for strawberry anthracnose in Nara, Japan	原著	Journal of General Plant Pathology	84:12-19	2018.2
井村岳男・平山喜彦	WEB版奈良県農作物病虫害防除指針について	原著	日本農薬学会誌	43:61-65	2018.2

7. 学会・研究会、シンポジウム等での発表・講演

学会・研究会(口頭発表)

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号：頁	発表 年月日
木矢博之	耕作放棄地由来バイオマスによるハウレンソウ萎凋病に対する土壌還元消毒の検討	関西病虫害研究会	講演要旨:121	2017.5.19
今村剛士・國本佳範	気門封鎖剤の加用がピフルブミド・フェンキロキシメート剤のナミハダニ黄緑型に対する殺ダニ効果に及ぼす影響	関西病虫害研究会第99回大会	関西病虫害研究会報:123	2017.5.19
浅野峻介・井村岳男	キクイムシ類によるキウイフルーツかいよう病の疑似症状	関西病虫害研究会第99回大会	関西病虫害研究会報:122	2017.5.19
森下星子・辻章宏・杉山高世・吉村昭信・西野精二	出穂後追肥が小麦「ふくはるか」の手延べそうめん加工適性に及ぼす影響	近畿作物・育種研究会第183回例会	-	2017.6.3
北條雅也	柿葉の後発酵茶の開発に関する基礎的検討	日本食品科学工学会	講演要旨第64集:107	2016.8.29
虎太有里・浅野峻介・仲照史・中嶋大貴	キク矮化ウイルス抵抗性小ギクの後代への抵抗性の遺伝について	園芸学会平成29年度秋季大会	園学研16別2:266	2017.9.2
藤田奈都	鶏糞堆肥を利用した有機質液肥利用技術	日本土壌肥料学会	講演要旨第63集:130	2017.9.6
濱崎貞弘	はじまりの奈良・日本文化の源流を探る柿の歴史と御所柿	第33回国民文化祭食文化シンポジウム	-	2017.9.17
浅野峻介・虎太有里・仲照史・芳田侃大	キク矮化ウイルスの接木接種における穂木の生育ステージがキクへの感染に及ぼす影響	平成29年度日本植物病理学会関西支部会	講演要旨:49	2017.9.19
芳田侃大・浅野峻介・角川由加	奈良県におけるキクべと病の発生状況と温湯消毒および殺菌剤による防除効果	平成29年度日本植物病理学会関西支部会	講演要旨:43	2017.9.20
仲照史	キクの日本型低コスト生産体系と目指して	平成29年度園芸学会近畿支部大会公開シンポジウム	講演要旨:29-30	2017.9.20
佐野太郎	冬季雨よけ栽培での赤色・青色光の夜間照射がハウレンソウの生育に及ぼす影響	園芸学会近畿支部会	-	2017.9.20
仲照史	奈良県における連携態勢の構築と最近の研究成果	平成29年度花き研究戦略会議	講演要旨:34-36	2017.9.27
今村剛士・國本佳範・井村岳男	防除方法の違いがナミハダニ黄緑型の薬剤抵抗性遺伝子頻度に及ぼす影響	平成29年度日本ダニ学会鹿児島大会	-	2017.10.1
浅野峻介	ウイルス・ウイルスの診断と防除技術	2017年度ダリア見学会	-	2017.10.13
仲照史	ダリア切り花の日持ち性に関する研究紹介	2017年度日本ダリア会見学会	-	2017.10.13
西本登志	オクラの成長に伴う機能性および嗜好性の変化	日本家政学会関西支部2017年度研究発表会	-	2017.10.15
西本登志	奈良県産ナスの機能性成分の品種間差と季節変動	日本家政学会関西支部2017年度研究発表会	-	2017.10.15
西本登志	サトイモに含まれる食物繊維量及び官能評価の品種間差と季節変動	日本家政学会関西支部2017年度研究発表会	-	2017.10.15
井村岳男	奈良県の露地ナスにおける土着天敵温存体系 最近の取組状況	第27回天敵利用研究会宮城大会	講演要旨:6	2017.10.26
虎太有里	奈良県で発生した異常気象の事例とその対策	平成29年度近畿中国四国農業試験研究推進会議 花き推進部会問題別研究会	-	2017.10.26
浅野峻介	露地栽培での温湯処理と薬剤散布による白さび病防除	きく類国産シェア拡大ネットワーク	-	2017.11.1

東井君枝・西本登志	ヒロズキンバエ成虫に対する薬剤の影響について	NPO法人中四国アグリテック 作物セミナー	-	2017. 11. 16
大谷正孝	条間・株間除草機を用いたヤマトトウキの雑草管理	近畿雑草研究会	近畿雑草研究会ニューズレター NO. 27	2017. 11. 23
東井君枝・西本登志・厚見治之	イチゴの受粉用ヒロズキンバエに対する薬剤の影響	第5回マゴットセラピー症例検討会	-	2017. 12. 2
濱崎貞弘	温故知新の多機能天然資材：柿渋の歴史と未来	柿渋・カキタンニン研究会 市民講演会	-	2017. 12. 9
今村剛士	ハダニ類の薬剤感受性検定法	平成29年度果樹茶業大会	-	2018. 1. 30
浅野峻介・芳田侃大	音声入力の利用による発病調査の省力化	平成29年度近中四問題別研究会 病害虫推進部会	講演要旨:8	2018. 3. 6
芳田侃大・浅野峻介	キク矮化ウイルス(CSVd)抵抗性小ギク品種のRNA-seqによる遺伝子発現解析	平成29年度近中四問題別研究会 病害虫推進部会	講演要旨:6	2018. 3. 6
井村岳男	露地ナスの土着天敵温存体系におけるヒメハナカメムシ類に対する数種殺虫剤の影響	平成29年度近中四問題別研究会 病害虫推進部会	講演要旨:19	2018. 3. 6
今村剛士・國本佳範・角川由加	奈良県におけるハダニ類の薬剤感受性およびナミハダニ黄緑型におけるピフェナゼート抵抗性の遺伝様式	平成29年度近中四問題別研究会 病害虫推進部会	講演要旨:36	2018. 3. 7
浅野峻介	奈良県でのダリアのウイルス病の診断と対策	園芸学会平成30年度春季大会小集会	-	2018. 3. 23
仲 照史・佐野太郎	中小規模温室でのCO2施用栽培試験における計測・制御で苦労したこと	園芸学会平成30年度春季大会「栽培系・環境制御系融合型施設園芸研究」小集会	-	2018. 3. 23
木矢博之	ソルガムを用いた還元土壌消毒によるハウレンソウ萎凋病の防除	園芸学会	第17巻別冊 1:387	2018. 3. 25
浅野峻介・芳田侃大・仲 照史	ダリアにおけるキク矮化ウイルスの感染による病徴	平成30年度日本植物病理学会大会	講演要旨:78	2018. 3. 26
今村剛士	奈良県で採集したナミハダニ黄緑型におけるピフェナゼート抵抗性の遺伝様式とチトクロムb遺伝子の点変異	平成29年度日本応用動物昆虫学会鹿児島大会	講演要旨:10	2018. 3. 26
井村岳男・今村剛士・國本佳範	採種用スイカにおける飛ばないナミテントウを利用したワタアブラムシ防除	平成29年度日本応用動物昆虫学会鹿児島大会	講演要旨:67	2018. 3. 27

学会・研究会(ポスター発表)

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号：頁	発表 年月日
東井君枝・西本 登志・根本明 季・厚見治之	イチゴ受粉用ヒロズキンバエに対する 薬剤の影響	園芸学会平成29年度秋季大 会	園学研16別 2:433	2017.9.3
杉村輝彦・辻本 誠幸・林良考・ 上田直也・市川 胤記	台木の違いがカキ‘甲州百目’の幼苗 接ぎ木苗の着果と生育に及ぼす影響	園芸学会秋季大会	園学研16別 2:390	2017.9.3
米田健一・浅尾 浩史	ヤマトトウキ(<i>Angelica acutiloba</i> Kitagawa)における葉の夏秋収穫が根 重と希エタノールエキス含量に及ぼす 影響	園芸学会秋季大会	園学研16別 2:490	2017.9.3
上田直也・市川 胤記・杉村輝彦	‘藤原御所’の花粉を交配して得られ た実生の倍数性	園芸学会春季大会	園学研17別 1:304	2018.3.25
市川胤記・杉村 輝彦	ポット栽培したカキ樹の果実表面の凹 みと果肉内褐斑に及ぼす高温と灌水の 影響	園芸学会春季大会	園学研17別 1:305	2018.3.25
米田健一・浅尾 浩史	ヤマトトウキ(<i>Angelica acutiloba</i>)の 短期育苗における播種密度と施肥量の 影響および省コスト化の検討	園芸学会春季大会	園学研17別 1:398	2018.3.25

8. 著書・雑誌・新聞・資料等への掲載、イベント展示、報道発表、テレビ、ラジオ

(著書・雑誌)

執筆者名	タイトル	掲載誌名	発行元・出版社	巻号：頁	発表年月
濱崎貞弘	くだもの百物語「我が国最古の果物『ブドウ』」	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第296号	2017.4
杉村輝彦	4～6月の重点管理作業 病害虫防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第296号:36-39	2017.4
瀬川賢正	はじまりの奈良 vol.8/茶	Discover Japan2017年6月号	樫出版社	第9巻第6号:160-161	2017.5
竹中 勲・井村岳男	奈良県の露地夏秋ナス栽培における土着天敵を活用したミナミキイロアザミウマ防除	グリーンレポート	JA全農	No.577:16-17	2017.7
濱崎貞弘	くだもの百物語「遙かなる『ナシ』の歴史(東洋編)」	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第297号	2017.7
杉村輝彦	7～9月の重点管理作業 病害虫防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第297号:36-38	2017.7
井村岳男	奈良県におけるカキのチャノキイロアザミウマ多発について	植物防疫	日本植物防疫協会	第71巻:551-554	2017.8
井村岳男	秋冬野菜の主要病害虫防除のポイント 虫害編	全国農業新聞	全国農業新聞	—	2017.8
今村剛士・浅野峻介	施設園芸作物の病害虫防除のポイント	日本農業新聞	日本農業新聞	—	2017.10
濱崎貞弘	くだもの百物語「キウイフルーツの母 フレイザー・イザベル」	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第298号	2017.10
杉村輝彦	10～12月の重点管理作業 病害虫防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第298号:48-50	2017.10
井村岳男	奈良県の露地ナスにおける天敵温存植物を利用したミナミキイロアザミウマの防除	植物防疫	日本植物防疫協会	第71巻:707-712	2017.11
浅野峻介	ダリアのウイルス・ウイロイド病	農業技術大系「花卉編」	農山漁村文化協会	追録第20号:360の28-38	2017.12
西本登志	低温・寡日照でも活躍～イチゴの受粉にビーフライ!	現代農業	農山漁村文化協会	2018年1月号	2017.12
仲 照史	ダリア・種苗増殖	農業技術大系「花卉編」	農山漁村文化協会	追録第20号:360の8-19	2017.12
濱崎貞弘	くだもの百物語「おめでたい果物の御神木」	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第299号	2018.1
杉村輝彦	1～3月の重点管理作業 病害虫防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第299号:42-45	2018.1
浅野峻介	ダリアにおけるトマト黄化えそウイルスの植物体内分布	植物防疫	日本植物防疫協会	第72巻:98-102	2018.2
仲 照史	栽植様式が小ギクの開花斉一性に及ぼす影響	農耕と園芸	誠文堂新光社	第73巻3号:48-53	2018.2
谷河明日香	輸出に向けた茶生産方法について(その2)	茶やまと	奈良県茶生産青年協議会	第66号	2018.2
浅野峻介	ダリアわい化病	日本植物病害大辞典	全国農村教育協会	インターネット版	2018.3
仲 照史	ダリア・種苗増殖	最新農業技術「花卉」	農山漁村文化協会	第10巻:7-18	2018.3
杉村輝彦	カキ病害虫の最近の発生状況	植防ニュース	奈良県植物防疫協会	第107号:2	2018.3
脇坂 勝	(7) ドラムドライ製法	緑茶用新品種「せいめい」の栽培・加工技術概要集	農食研究推進事業26099Cコンソーシアム	第1版:21-22	2018.3

(イベント展示)

発表者	タイトル・テーマ・見出しなど	イベント名	発表年月日
渡辺英信・岡山彩子・市川胤記	柿の販売、センター等のPR	第7回さくらい農・商工ふれあいフェスタ	2017. 11. 11
嶋田義明、渡辺英信、西本登志、西田一平、仲 照史、杉村輝彦、上田直也、市川胤記	研究成果の事業化、新たな共同研究シーズの発見	アグリビジネス創出フェア2017	2017. 10. 4-6
濱崎貞弘	柿タンニン健康食品「柿ダノミ」の展示	第43回国際食品・飲料展 (FOODEX JAPAN 2018)	2018. 3. 6-9

(報道発表)

担当	タイトル	発表年月日
研究企画推進課	農業研究開発センターニュース152号を発行しました	2017. 7. 11
研究企画推進課	農業研究開発センター公開デー開催!	2017. 9. 28
果樹・薬草研究センター	「果樹・薬草研究センター開放デー」開催	2017. 11. 14
研究企画推進課	農業研究開発センターニュースを発行	2018. 1. 9
研究企画推進課	農業研究開発センター「成果発表会」を開催	2018. 2. 13

(新聞)

発表者	タイトル・テーマ・見出しなど	提供先メディア	掲載日
東井君枝	イチゴ授粉 期待の助っ人 医療用ヒロズキンバエミツバチ代わり有望	日本農業新聞	2017. 5. 30
西本登志	新大和の食模様「奈良の農業の未来を担う農業研究開発センター 新しい特産野菜を」	奈良新聞	2017. 6. 21
西本登志	腰でスイッチ操作 作業しながら移動OK 電動イチゴ収穫台車開発 奈良県と地元高専	日本農業新聞	2017. 7. 27
木矢博之 佐野太郎	エダマメの省力栽培	日本農業新聞	2017. 8. 16
上田直也	老樹に実る幻の柿	毎日新聞	2017. 11. 25
木矢博之	雑草で土壌還元消毒	日本農業新聞	2017. 12. 15
西本登志	On Air With Tacty In The Morning 「DJ大抜卓人が気になる場所、人、ものにアクセスするTRAVEL WITH TACT ～美味しいイチゴの選び方～」	FM802	2018. 3. 5
木矢博之	エダマメの省力栽培	農機新聞	2118. 3. 20

(奈良新聞「農を楽しむ」)

担当者	タイトル	所属	掲載日
藤田奈都	肥料をあげましょう	基盤技術科	2017. 4. 2
岡山彩子	柿の新しい加工品	研究企画推進課	2017. 5. 7
中嶋大貴	奈良県の小ギク生産	育種科	2017. 6. 4
井村岳男	農薬の安全な使用	基盤技術科	2017. 7. 2
濱崎貞弘	新・柿の健康七絶	加工科	2017. 8. 6
小林 甫	薬草としての芍薬	薬草科	2017. 9. 3
脇坂 勝	お茶の樹について	大和茶研究センター	2017. 10. 1
厚見治之	ミョウガを育てよう	育種科	2017. 11. 5
北條雅也	いろいろなお茶について	基盤技術科	2017. 12. 3
米田祥二	金時ニンジンについて	大和野菜研究センター	2018. 1. 7
森下星子	奈良県の大豆の話	加工科	2018. 2. 4
市川計記	イチジクのあれこれ	育種科	2018. 3. 4

(テレビ・ラジオ)

発表者	番組・タイトル・テーマ・見出しなど	提供先メディア	発表年月日
佐野太郎	「ならナビ」内「奈良にゆかりのある遺伝資源を保存するジーンバンクの開設について」	NHK奈良放送局	2017. 8. 4
浅尾浩史	FM五條ヒルドキ！（柿博物館のPR）	FM五條	2017. 8. 21
市川胤記	ほんでミーゴ	近鉄ケーブルネットワーク	2017. 9. 21
浅尾浩史	「ならナビ」（渋いのに甘い？五條の柿）	NHK奈良放送局	2017. 9. 29
濱崎貞弘	大人のいろどりっ！ これってキニナル！「なぜ渋柿の『渋味』はなくなるの？」	CBCラジオ	2017. 11. 28
米田健一・浅尾浩史	かんさい情報ネットten!	読売テレビ	2018. 3. 14

9. 平成29年度 奈良県農業研究開発センター研究評価委員会 評価結果

平成30年2月7日開催 ホテル日航5階ゆりの間

評価対象課題等について

- 1) 評価対象課題
中期運営方針に基づき平成29年度に実施した、4つの大課題に含まれる26の小課題を対象とする。
- 2) 評価方法
必要性、達成状況、事業効果について5段階の評価を行う。評価委員会の各委員の評点を合算の上、平均値を求める。
- 3) 評価結果の活用
農業研究開発センター所長は、評価結果を研究活動等に適切に反映させ、9未満の場合は、委員の提言に従って修正または見直しを行い、研究企画委員会へ報告する。

評価委員名簿

評価委員氏名	
石田裕彦	奈良県指導農業士会副会長
重岡成	近畿大学農学部長
鶴木千里	前奈良県消費生活審議会委員
福谷健夫	奈良県農林部長
山下理恵子	奈良県指導農業士会会長

各研究課題の評価(評価委員の平均値で記載)

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
薬用作物の安定供給	優良品種の育成	ゲノム育種等による優良品種の育成	4.3	3.5	3.3	11.0
		・Fu1遺伝子タンパク質の機能が、結果としての開花の有無に関係することを明らかにできた。今後、この知見に基づいて、優良系統の選抜、それらのトウキ根の収量増大に期待する。				
	省力・安定生産技術の開発	省力化技術の開発 安全・安心で安定多収技術の開発	4.5	2.5	3.8	10.8
		・初めての薬用作物の栽培マニュアルの作成は評価に値する。今後、実践面での活用に期待する。 ・マニュアル記載技術により除草作業時間が著しく短縮できることは省力化の実現に有効であると思う。				
	生薬以外への利用に向けた生産技術の開発	トウキ葉の安定生産技術の開発	3.8	3.8	3.5	11.0
・根と葉の収量とそれらの質の問題との相関性を、より明確にすべきである。植物工場での栽培層のエアレーションが重要であることは理解できたが、これを規模も含めて実現させるためには、それらの付加価値も含めてコスト面をしっかりと見据えて取り組むべきであろう。 ・トウキ葉の食用利用が可能とのことだが、健康野菜としての市場ニーズがそもそもあるのか疑問。						
宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	4.3	3.0	3.8	11.0	
	・一年目として、アウトプットが明らかな3品目の成果は順調に出ていると思うが、これ以降、安定的な収量増大、そして最終的なコスト削減を達成すべく、栽培のマニュアル化を目指してほしい。 ・この研究により宇陀地域に於いて薬草栽培が定着することを期待する。					
優良品種の育成	商品性の高い新たなイチゴ品種の育成	取引に有利なケーキ店用、高級果実店用品種の育成	4.0	3.5	3.5	11.0
		・実食で個々の特徴を実感できた。コスト面を含めた安定供給と、品種登録後の販売拡大に期待する。 ・試食した高級果実店・直売用品種の2系統について、既存の他県の品種と比較して魅力に欠けた。 ・研究目的は理解するが、実際には小果はくずになって生産者の不利益にならないか。ケーキ店では、SからLまでいろいろなサイズのイチゴが必要と聞く。				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
優良品種の育成	産地間競争に打ち勝つキク品種の育成	気象変動に左右されない安定した開花特性を持つ小ギク品種の育成	4.5	3.5	3.5	11.5
		・ 時期的な需要と、端境期の安定供給という視点での取り組みは、評価に値する。有望株の最終的な品種登録出願と、実質的な普及・シェア拡大を期待する。				
		遺伝子解析技術を活用した病害抵抗性品種の育成	4.0	3.3	3.8	11.0
		・ 抵抗性の育成・選抜および3か月での評価法の確立は評価するが、最終的な新品種の普及が本課題の成果の鍵となる。				
	甘柿のない時期に出荷できる甘柿品種の育成	交配による新品種候補の作出と、遺伝子解析による10月下旬～11月上旬に出荷できる甘柿の早期選抜	4.8	3.3	3.8	11.8
		・ 課題目的の11月上旬までの出荷可能な柿品種の育成は評価するが、次年度でどこまで、2系統の詳細なデータ解析により、目的とする品種を見出せるかがカギとなる。 ・ 高級果実店で扱われるようなオリジナル柿品種の完成に期待する。				
	遺伝資源の保存と活用	奈良オンリーワン酒米品種の育成	4.0	3.0	3.0	10.0
		・ これまでに交配、選抜を行い、10系統前後まで持ってこられたのは評価する。最終的な収量、品質などの調査と、お酒としての適性に期待する。				
		奈良に歴史にゆかりのある遺伝資源の保存と活用	3.75	3.0	3.0	9.75
		・ 昨今の遺伝子解析状況を鑑み、大和野菜の遺伝資源の保存と活用は重要である。得られた解析データを、いかに迅速かつ効率的に世の中に公表するかで、それらの価値も変化する。				
加工商品の開発と加工技術の研究	イチジクなど奈良オンリーワン加工品の開発	オリジナルティ溢れるイチジク加工新商品の開発	4.5	3.8	3.8	12.0
		・ イチジク加工品の完成は評価できる、今後の販売拡大に大いに期待する。 ・ イチジクグラッセは美味しかった。奈良の美味しい土産物になることを期待している。				
	奈良彩りドレッシングの開発	3.5	3.0	3.0	9.5	
	・ 色調に注目した本課題は、興味ある取り組みであるが、今後は試作品の保存の環境（温度、明暗など）、時間などを検討していく必要がある。					
加工商品の開発と加工技術の研究	奈良特産品の成分分析と調理・加工法の開発	大和野菜の機能性評価と機能性を活かした新商品の開発	4.3	3.5	3.3	11.0
		・ 抗高血圧作用を持つネブカの新しい活性物質の定量および廃棄物からの抽出・定量の確立は評価する。ただ、タイトルにある他の大和野菜の機能評価など、全体としてブランド力強化は、今後も継続して行うべき課題と思われる。 ・ 「結崎ネブカ＝抗高血圧作用」ということが周知され、開発中の商品が販売されることに期待する。				
	機能性成分に着目した新商品の開発	糖の吸収を抑える柿タンニンを活かした「特定保健用食品」等新商品の開発	4.5	4.5	4.0	13.0
		・ 柿タンニンのタブレットの販売は評価に値する。今後の販路拡大、そしてタンニンの機能性が明らかなることを期待する。				
		食品添加用粉末茶とそれを用いた機能性食品の開発	4.0	3.5	3.5	11.0
・ 実飲により、つゆひかりの甘みは体験できた。カフェインの低減化、メチル化カテキン含有の粉末茶の開発のより一層の努力を期待する。						

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
革新的な生産技術の開発	脱化学農薬！ 天敵利用技術の開発	地域や作物に応じた土着天敵活用技術の開発	4.3	3.0	3.0	10.3
		・できるだけ早く、オオタバコガとクモ頭数の因果関係の明確化、クモ類への影響の少ない農薬の開発を期待する。				
	脱化学農薬！ 微生物利用技術の開発	土壌への定着性を高めた微生物による土壌病害防除技術の開発	3.5	3.0	3.0	9.5
		・土壌病害防除における納豆菌バチルス菌の微生物農薬としての利用は興味ある課題である。他の効果も含めて、実施的にコスト面も含めて可能となるように期待する。				
耕作放棄地の再生と利活用技術の開発	土質に合った作物選択と水分管理技術の確立	3.5	3.0	3.0	9.5	
	・耕作放棄地の再生のための6種類の作物栽培試験は興味ある課題であるが、個々に異なる放棄地での最適な作物の選択、年間と通した栽培など、適正な指導（マニュアル）が必要となる。					
奈良特産品の高品質・安定生産技術の開発	ロボット技術やセンサー技術の活用による農作業補助機械の開発	4.3	3.0	3.8	11.0	
	・走行安定性の強化など、いくつかの強化は評価できるが、最終的にはコストパフォーマンスを明確にして、普及を図るべきであろう。					
革新的な生産技術の開発	奈良特産品の高品質・安定生産技術の開発	DNAマーカーの活用によるウイルス等の診断技術・防除対策の確立	3.3	3.3	3.3	9.8
		・発病の品種間差、育苗期の病後薬剤の効果を明らかにしたことは評価する。迅速かつ効率的な遺伝子診断の確立が、病原菌特定と防御のカギとなる。 ・この研究により廃棄率が下がることを期待します。				
		チャの早期成園化技術の開発	4.3	3.8	3.3	11.3
		・セル苗と慣行苗の生育が同等であることは評価する。3条植が2条植より、栽培が良いのはなぜか。				
	日持ちの保証ができる「奈良の花」品質向上技術の開発	3.8	3.5	3.0	10.3	
	・NaClを含む液肥を用いた花卉の日持ち効果は評価できる。多くの花卉類への効果と、その普及に期待する。					
	奈良にふさわしいパイプハウス雪害対策技術の開発	耐雪対策技術の開発	4.0	3.3	3.3	10.5
・資材による補強効果の増大、コスト削減、マニュアルの刊行による実質的な普及効果を期待する。						
雪下ろし技術の開発		3.8	3.0	3.0	9.8	
・ネット、マイカ線の設置などでの安定化、そして資材に検討も順調に進展している。これも技術のマニュアル化により、普及につながることを期待する。						
女性に優しい農業機械の開発	女性に優しい農業機械の開発	4.5	3.0	3.0	10.5	
	・農林水産省をはじめとして、女性の就農者の支援が行われている状況で、農業従事者への簡便化、労働力の軽減化への取り組みに大いに期待する。					

10. 共同研究・受託研究（外部資金研究）の実施状況

研究課題名	共同研究機関	委託事業 (資金) 名	委託機関 (契約先)	担当係・ チーム・課	研究 期間
持続的な果樹経営を可能とする生産技術の実証研究(カキ産地リフレッシュ技術の確立)	福島県、和歌山県、 神奈川県、(株)福島 天香園、大内わら加 工品(株)	食料生産地域再生のた めの先端技術展開事業 (福島県内 農業・農 村分野)	農林水産省 →(一社)食 品需給研究 センター	果樹栽培 ユニット	H25～29
ナミハダニの薬剤抵抗性メカニズム の解明と管理技術の開発	農研機構生物研、京 都大学、静岡県	ゲノム情報等を活用し た薬剤抵抗性管理技術 の開発(農水省委託プ ロ)	農林水産省 →農研機構 生物研	病害虫防 除ユニッ ト、遺伝 資源保存 ユニット	H26～30
実需者ニーズに対応した茶品種の育 成とその栽培・加工・利用技術の開 発	農研機構果茶研、京 都府、三重県、佐賀 県、福岡県、鹿児島 県ほか	農林水産業・食品産業 科学技術研究推進事業	農林水産省 →農研機構 野茶研	茶栽培ユ ニット	H26～30
中山間の未利用有機性資源を活用し た人にも環境にもやさしい土壌消毒 技術の実用化	農研機構西日本農 研、広島県、山口 県、徳島県、山形大 学、みのる産業(株)	農林水産業・食品産業 科学技術研究推進事業	農林水産省 →農研機構 西日本農研	環境保全 ユニッ ト、遺伝 子保存ユ ニット	H27～29
キクウイロイド性矮化病の罹病性検 定技術の開発と抵抗性品種の選抜	農研機構花き研、群 馬県、宮城県	国産花きの国際競争力 強化のための技術開発 (農水省委託プロ)	農林水産省 →農研機構 花き研	病害虫防 除ユニッ ト・花き 栽培ユ ニット	H27～31
日持ち性等に優れた性質を持つ新規 有望品目の育成	農研機構花き研、秋 田県	国産花きの国際競争力 強化のための技術開発 (農水省委託プロ)	農林水産省 →農研機構 花き研	花き栽培 ユニット	H27～31
多収阻害要因の診断法及び対策技術 の開発(ヤマトトウキの雑草管理軽 労化技術の開発)	農研機構中央農研 (株)キューホー	多収阻害要因の診断法 及び対策技術の開発 (農水省委託プロ)	農林水産省 →農研機構 中央農研	薬草栽培 ユニッ ト、穀物 栽培ユ ニット	H27～31
蛍光発光する蓄熱基材による温室栽 培植物の育成促進と大幅省エネを 実現する高機能農園芸システムの開発	—	戦略的基盤技術高度化 支援事業	中小企業庁 →大阪府大	野菜栽培 ユニット	H27～29
冬季寡日照地域のイチゴ栽培におけ るミツバチの補完ポリネーターとし てのビーフライ(ヒロズキンバエ) の利用	ジャパンマゴットカ ンパニー、岡山大 学、島根県、農研機 構西日本農研	革新的技術開発・緊急 展開事業(うち地域戦 略プロジェクト)	農研機構生 研支援セン ター	野菜栽培 ユニット	H28～30
都市近郊エダマメ栽培体系に適応し たダイズシストセンチュウの生物的 防除法の開発	東京農工大学、農研 機構中央農研、千葉 県、神奈川県、大阪 府環農水研、(株) 環境管理センター	革新的技術開発・緊急 展開事業(うち地域戦 略プロジェクト)	農研機構生 研支援セン ター→東京 農工大	病害虫防 除ユニッ ト、遺伝 資源保存 ユニット	H28～30
極端化する気象災害に対応する新た なハウス構造の開発	奈良高専 徳農種苗(株)	(民間委託試験)	徳農種苗 (株)	遺伝子保 存ユニッ ト	H28～30
トウキを核とした複合経営モデルの 開発	山形県、宮崎県、農 研機構西日本農研	薬用作物の国内生産拡 大に向けた技術の開発 (農水省委託プロ)	農林水産省 →農研機構 西日本農研	薬草栽培 ユニット	H28～32
イチゴの育種素材の検討	—	育成系統評価試験(イ チゴ)	農林水産省 →農研機構 野菜研	野菜栽培 ユニット	H23～
茶樹の新規育成系統における産地適 性の検討	—	茶育種研究に係る系統 適応性・特性検定試験	農林水産省 →農研機構 果樹茶研	茶栽培ユ ニット	H27～
農地管理実態調査	—	農地土壌炭素貯留等基 礎調査事業	農水省近畿 農政局	環境保全 ユニット	H25～
河川中農薬モニタリング調査	—	農薬残留対策総合調査	材料科学技 術振興財団	環境保全 ユニット	H26～
微生物殺虫剤を用いた野菜重要病害 虫のデュアルコントロール技術の開 発	岐阜県、長野県、三 重県、アリスライ フサイエンスほか	農林水産業・食品産業 科学技術研究推進事業	農林水産省 →農研機構 野花研	病害虫防 除ユニッ ト	H29～31

研究課題名	共同研究機関	委託事業 (資金) 名	委託機関 (契約先)	担当係・ チーム・課	研究 期間
低コスト・強靱化を実現する建設足場資材を利用した園芸用ハウスの開発	農研機構野花研、岡山大学、広島県、島根県、静岡県、和歌山県、香川県、株式会社果実堂	革新的技術開発・緊急展開事業（うち経営体強化プロジェクト）	生研センター→農研機構西日本農研	野菜栽培ユニット	H29～31
輸出相手国が侵入を警戒する検疫有害動植物の発生状況調査	全国都道府県病害虫防除所等	輸出植物検疫協議の迅速化委託事業	農林水産省→農研機構中央農研	病害虫防除ユニット	H29～30
鉢花・花壇苗の品質評価基準の作成と品質低下要因の解明（花き日持ち保証に対応した切り花品質管理技術の改善と実証）	農研機構野花研	花き日持ち性向上対策実証事業（国産花きイノベーション推進事業のうち）	農林水産省→MPSジャパン	花き栽培ユニット	H29
稲新品種登録出願品種の栽培試験	—	実施出願品種栽培試験事業	種苗管理センター	穀物栽培ユニット	H29
飛ばないテントウムシを用いた採種スイカでの病害虫防除体系の実証	大阪府、岡山県、佐賀大学、アグリ総研	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業	農林水産省→農研機構西日本農研	病害虫防除ユニット	H29～30
ダイズ品質・収量の空間変動を是正し実需者のニーズに応える可変量管理の実証	石川県立大学、山口県	科学研究費助成事業	(独)日本学術振興会→京都大学	穀物栽培ユニット	H29～31